

**いざという時に!** **災害時でも組み立て簡単! 座れる簡易トイレ**

約32cm  
約30cm  
約31cm

目隠しになる便利なポンチョ付き

水分を素早く固める凝固剤付き

**“もしも”の時の安心を備える**

- 非常用簡易トイレ  
組み立て簡単! 目隠しポンチョ付
- 凝固剤+汚物袋のお得なセット  
防災用トイレ袋50回分 半永久保存

セット内容

日本水循環文化研究協会

第10回 **リレーコラム**

特定非営利活動法人日本水循環文化研究協会とは…本コラムでも取り上げられている尿尿に関わる文化や国内外の水の循環をめぐる文化の発掘、普及、継承を目指して活動しています。2022年日本下水文化研究会から改組しました。

J.A.D.E

今回もおなじみ、総合トイレ学研究家の森田英樹さんにお話を伺いました。

**“鬼の雪隠”のはなし**

前回は「九分九厘のはなし」と題し、排泄姿勢は私達が良く知る腰掛式やしゃがみ式のみではなく、台湾原住民のアミ族やサイヤット族は中腰で大便をしたことや、パプアニューギニアでは、何と歩きながらの『立ち大便』の記録がある事をお話しました。さて今回は、これらの知識を総動員して皆さんにとあるトイレの使い方を推測していただきたいと思ひます。

高松塚古墳やキトラ古墳、石舞台などで有名な奈良県の明日香村には興味深いトイレが伝わっています。それは花崗岩の巨石で作られており、大きさは高さ約1.3m、内幅約1.5mに達します。しかも、トイレを使っていたのは、この地に住む鬼であり「鬼の雪隠」と呼ばれています。霧ヶ峰と呼ばれているこの一帯には鬼が住み通行人に霧を降らせ道に迷った所を捕え、料理をして食べ「鬼の雪隠」で用を足したと伝わっています。料理をする時に使ったと伝わるのが「鬼の組板」と呼ばれるものです。組板も雪隠と同じく花崗岩で作られ長さ約4.5m、幅約2.7m、厚さ約1mに達します。

さて、『鬼の雪隠』『鬼の組板』の大きさですが、組板は人間を載せて調理するには手頃な大きさかもしれません。しかし、問題は雪隠です。そもそも、『鬼の雪隠』は腰掛式であるのか、しゃがみ式であるのかわかりません。あるいは中腰や立ち大便式なのかもしれません。鬼の排泄姿勢がわからないと、『鬼の雪隠』の使い方もわかりません。もしかすると、今ある姿も長い年月の中で、欠損したり天地が逆さまになったり、あるいは横倒しになってしまったかもしれません。皆さんはどのように使い方を推測いたしますか?使い方がわかれば、人間のトイレの大きさに比例させて鬼の身長も推測でき、桃太郎や一寸法師の話も見方が変わるかもしれません。何とも謎多き『鬼の雪隠』ではありますが、唯一確かなことは、このような明日香は歴史ロマン溢れる地であることだけは間違いありません。

鬼の雪隠

鬼の組板

**トイレ歳時記 1月**

お正月には玄関や神棚など、家の中の神様が宿る場所に鏡餅を供えます。日本鏡餅組合によると、トイレの神様は「廁神」と呼ばれ、昔から女性のお産を守る神様として大切にされており、トイレにも小さな鏡餅を供えると良いということです。

**編集後記**

アメニティネットワークのメンバーが一堂に会するアメニティネットワークショップ会が5年ぶりに開催され、日本中のトイレをきれいにするメンバーが横浜に集まりました。「かわや版毎回楽しみにしているお客様がいるよ」「マンホールの特集が好評だったよ」など、かわや版をお客様に直接お渡しするスタッフから反応を聞くことができ、これからはよりよい紙面をお届けしようという活力の源になりました。(セルベッチオ中嶋)

あなたの町のアメニティネットワーク

アメニティ本部フリーダイヤル ☎0120-57-1110

コンナ イイトレ

トイレを楽しくする新聞

**かわや版**

2025 新年号 Vol.112

Amenity Network

http://www.amenity-network.net/

【発行所】株式会社アメニティ  
〒221-0863 横浜市神奈川区羽沢町885  
TEL:045-371-7676(代) FAX:045-371-7717  
Copyright © 2004 AMENITY INC. All rights reserved.

**特集**

**能登半島地震でのトイレの状況と課題**

第40回目を迎えた日本トイレシンポジウム。今回は「能登半島地震の経験から考えるインクルーシブ防災と災害トイレ」というテーマで開催されました。「高齢者や子供、障害者も誰一人取り残さない防災」という視点から石川県小松市に本社を置くコマニー株式会社の高橋未樹子氏による、避難所やトイレについての報告をお伝えしたいと思います。

能登半島地震の概要

- \*2024年1月1日16時10分
- \*石川県能登地方を震源地とする最大震度7の地震
- \*死者数441人(災害関連死214人含む)
- \*2024年11月12日発表
- \*避難者数最大40,688人(1月2日)
- \*避難者数564人(9月21日の水害によるものも含む) ※11月5日発表

倒壊した輪島市の家屋(4月24日撮影)

手つかずの焼けた輪島朝市(4月24日撮影)

**CASE 1**

**福祉避難所輪島カブーレ**

輪島市と協定を結んでいたグループホームで、1月2日から福祉避難所として開設しましたが、地震により施設の屋根が崩れ落ちたため、車椅子、聴覚、精神、知的、発達障害の皆とスタッフで、近くの避難所に避難をしました。しかしそこにも朝市の火の手が迫り、輪島市役所に再度避難することになりました。通常市役所は避難所にはなりません、地域の住民も集まってきたため急遽避難所になりました。途中で車がパンクし、皆で手を繋いで助け合って避難をしました。避難してからは、精神、発達障害者になるべく日常に近い生活が送れるように、清掃やゴミ捨てなど、普段から行っていた活動を早期に始めました。携帯トイレの備蓄がなかったので、便器に便を溜めるしかなかったのです。その便器に溜まった便を、カブーレの入所者やスタッフが1時間に1回、掻き出して袋に詰め、他の避難者がトイレをできるように清掃しました。発災直後は一般の避難者は現実を受け入れられず呆然としている人が多く、カブーレの障害者が清掃などで避難者の生活を支援していました。

高橋 未樹子氏  
コマニー株式会社 研究開発本部  
一般社団法人日本トイレ協会理事。

SAKEBEER NOTO 2024  
創造的復興とはなんだ?!

4/28 11:00 - 17:00 輪島KABULET前通り(輪島市河井町)

震災後、輪島カブーレでは創造的復興を皆で考え「能登はひとりじゃない」というメッセージを発信するイベントも開催されました。

# 特集 能登半島地震でのトイレの状況と課題

## CASE 2 輪島中学校

発災1週間後、約1,000人が避難していた輪島中学校では食べ物すらまともに届かず、避難所は混乱状態でした。洋式トイレの便器に袋をかぶせて携帯トイレを使っていましたが、ごみ収集がまだ行われていなかったため汚物のごみが溜まる一方でした。



校舎外に溜められた汚物やゴミ

汚物処理をする人を限定していましたが、避難所では感染が広がり1月7日からは体調不良者が続出、嘔吐物の処理などで現地は過酷な状況でした。雪が降る寒い屋外の仮設トイレは和式便器で、トイレを我慢している人が多くいらっしゃいました。避難所で今必要な物資を尋ねると、「パンツとズボン」と即答されました。



### さいごに

今回の能登半島地震においては断水が長引いたことで、困難を極めました。災害時のトイレにおいて、国や自治体が支援をしてくれると思っている人も多いかもしれませんが、仮設トイレが届くには3日以上かかります。自助・共助・公助の割合は、7:2:1だと言われているとおり、公助、共助に頼りすぎず、自助も大切である。改めて、個人で携帯トイレを最低でも7日分用意することを強くおすすめします。また、いざという時のために困らないように、平時に練習の機会を設けましょう。

トイレに不自由を感じるためギリギリまで我慢をし、失敗してしまう人もいたためです。

1月7日に宇和島から昇降式のトイレカーが到着し、高齢者から大変喜ばれました。ただ、昇降機の使い方がわからず、担当者のいない夜間などには使用できませんでした。



昇降式のトイレカー(宇和島市ホームページより)

## CASE 3 視覚障害者O氏

O氏は珠洲市の自宅の2階で被災、近所の人と一緒に1次避難所となっている高台の小学校へ避難しました。普段通り慣れた道が、液状化で隆起し、雪も積もっていたため近所の人に引張り押し上げてもらってなんとか避難しました。避難所でのトイレは、携帯トイレを洋式便器に被せて使っていたが、メーカーにより仕様が異なり、使い方が分からず苦労しました。また、前の利用者の便に触れてしまうことが度々起こったが断水が続いているため手も洗えず、非常に苦痛でした。これが原因か、感染症にかかり苦しむ日が続きました。そのため、屋外の仮設トイレが届いてからは、そちらを利用しました。

## CASE 4 一人暮らしの高齢者M氏

自宅で被災。大津波警報が出たので、助けに来てくれた隣のご夫婦と一緒に高台に避難。大津波警報解除で一旦自宅に戻り、翌朝近所の人と乗り合わせて一次避難所に避難しました。避難直後は仮設トイレもまだ届かず、携帯トイレもありませんでした。便器が便であふれたので、若い人たちが川から水を汲んで流してくれました。行政から避難所に配られる食べ物が止められるということで、まちの皆で相談して、1月末に自宅に戻りました。

自宅に戻っても水は出ない。トイレは、バケツで水を汲んで流していましたが、重くて大変でした。断水が解消されたのは4月6日のことでした。



避難した高台。高齢者の足では大変。



2007年の地震で倒れたままの家財道具。ボランティアをどこに頼んでも良いかわからずそのままに生活していた。

# Amenity News アメニティニュース トイレ診断士が台湾で講演

11月18日、台湾の公衆トイレを管轄する台湾中央政府の環境部と台湾トイレ協会の共催で、「環境衛生の持続可能な発展の重要性」をテーマとした公益フォーラムが開催されました。フォーラムでは、環境部環境管理署の顔旭明署長が挨拶を行い、魏文宜組長が「公衆トイレ政策」をテーマに、台湾における公衆トイレの進化や政府の施策について紹介しました。

さらに、「清掃維持と環境衛生の持続可能な管理」をテーマとして、日本の専門家として、厚生労働省認定社内検定トイレ診断士1級のアメニティの山戸伸孝社長が招かれ、日本のトイレ管理システムやメンテナンスの実例を共有しました。この場では、台湾の政府機関、公衆トイレ管理団

体、民間企業との対話や交流が行われました。また、台湾トイレ協会の理事長の林錦堂氏は、東京・代々木深町に設置された透明

なトイレ(THE TOKYO TOILET)の視察例を挙げ、公衆トイレの環境衛生におけるトイレマナーの重要性について啓発しました。



左から3番目が魏文宜組長、そこから右へ顔旭明署長、林錦堂氏、山戸伸孝

# 海外から注目を集めるTOKYOのトイレ Toilet Topics 世界トイレ協会の視察団来日

2024年11月20日から3日間の日程で、世界トイレ協会の視察団が日本のトイレ事情の視察に訪れました。今回来日されたのは、世界トイレ協会の事務局長であり、韓国・水原(スウォン)にあるトイレ博物館の館長も務めるイ・ウォンヒョンさんを代表とした7名の皆さん。渋谷のTHE TOKYO TOILETのトイレの視察にあたり渋谷区長にも面会し、TOTOやLIXILのショールーム、また、東京ビックサイトで開催されたトイレ産業展にも足を伸ばしました。

視察団一行は行く先々で日本のトイレのディテールの細かさや、丁寧なトイレメンテナンスに感心された様子で、イ・ウォ

ンヒョン代表は、「日本のトイレは本当に素晴らしい。私たちはトイレを通じた家族だと思っている。これからも交流をしたい。」と語りました。



東京ビックサイトで開催されたトイレ産業展では、トイレ関連企業や日本トイレ協会のブースを訪れました。

世界トイレ協会 2007年創立。世界のトイレの衛生状態改善を通じて命を守ることを目的とした国際組織。衛生的な水とトイレにアクセスできない人々のために、これまで発展途上国で38か所のトイレの寄贈を行っている。



「透明トイレ」で脚光を浴びた代々木深町小公園のトイレで記念撮影。パーテーションが透明になる仕組みやオストメイト用シンクに関心が寄せられました。



LIXILが推進する世界中にトイレと手洗いを広げる「SATO事業」の説明では、その仕組みや汚物の処理方法など、具体的な質問が飛び交いました。

